

荒川区民総幸福度（GAH）

～共に築くあたたかい地域社会～

あたたかい地域社会を築くために

荒川区長・公益財団法人荒川区自治総合研究所理事長 西川太一郎



私は区長就任以来、全ての区民の皆様が幸せに生きていくことができる地域社会を築いていきたいとの思いで、区政に全身全霊を傾け取り組んでまいりました。区政の究極の目標は、区民の皆様の幸福度の向上です。

現在、区では、区民の皆様の幸福度の指標を作成し、それに基づいて、区に関係のある人々や団体の方々と共に幸福度の向上を図っていこうという荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピーネス：GAH）の取り組みを行っております。

荒川区では、国や全国の自治体に先駆け、平成 17 年から荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みを進めてまいりました。幸福度を区政の尺度に取り入れる際には、東京大学名誉教授の月尾嘉男先生から「幸福を求めるよりも、当面、不幸だという人を減らすことが重要ではないか」とご教示いただき、区民の皆様が一番身近な基礎自治体だからこそ、区民の皆様の幸福度を区政の指標にできるという思いを強くしました。この間、ブータン王国への職員の派遣や区政世論調査の実施など地道に研究を重ね、平政 21 年からは自治総合研究所で本格的に研究を進め、書籍の発行や研究の中間報告書の公表も行いました。このような積み重ねが認められ、幸福度に取り組む自治体のトップランナーとしてテレビや新聞などにも大きく取り上げられ、多方面から非常に多くの注目と関心をお寄せいただいているところです。

私たちは、このたびの東日本大震災から、多くのことを学びました。その中の一つとして、地域のつながりが人々の心の支えになり、生活に安心をもたらしていることを強く感じた方も多いのではないのでしょうか。東京大学名誉教授の神野直彦先生は、競争原理に基づく「競争社会」ではなく、人々の分かち合いに基づく「協力社会」への移行の重要性を説いておられます。今後とも荒川区の誇りである地域の助け合い、団結力をさらに深めながら、互いを思いやり、一人ひとりの持てる力を分かち合うことで、あたたかい地域社会を区民の皆様と共に築いていきたいと思っております。皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。



Q. 荒川区民総幸福度(GAH)とは？

A. 荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピーネス：GAH）とは、区民の皆様の幸福度のものさし、つまり幸福度を測る指標のことです。

日本では、戦後右肩上がりでも国内総生産（GDP）が上昇し、経済的・物質的には豊かになりました。しかしながら、国民の幸福度は、この間ほとんど上昇していません。荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みの背景には、本当に大切なのは経済的・物質的な豊かさを追い求めることではなく、真に区民の皆様が幸福を実感できるようなあたたかい地域社会を築いていくことであるという考え方があります。

区民の皆様の幸福度の指標が作成できれば、その動向を見ながら区民の皆様の幸福度の向上に寄与するような政策につなげていくことが可能となります。これにより、区の限られた財源と人員を最適に配分し、よりよいサービスを実現させることができると考えています。



Q. これまでの取り組みの経緯は？

荒川区は、国や他自治体に先駆けて、平成17年から荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みを開始しました。主な取り組みの経緯は、下表のとおりです。

年月	活動内容等
平成16年11月	「区政は区民を幸せにするシステムである」という区のドメイン（事業領域）を設定
平成17年11月	西川区長、荒川区民総幸福度（GAH）の導入を提唱
	荒川区民総幸福度（GAH）に関するプロジェクトチームを庁内に組織、検討開始
平成18年11月	ブータンへ、グロス・ナショナル・ハッピーネス（GNH）に関する視察団を派遣
平成19年2月	第31回荒川区政世論調査報告書において荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査結果公表
平成19年3月	「幸福実感都市あらかわ」を掲げた「荒川区基本構想」及び「荒川区基本計画」策定
平成21年10月	荒川区自治総合研究所設立、荒川区民総幸福度（GAH）研究プロジェクト発足
平成22年2月	GAHに関する情報誌「GAH NEWS」創刊
平成22年5月	GAHに関する書籍『あたたかい地域社会を築くための指標』出版
平成23年8月	『荒川区民総幸福度（GAH）研究プロジェクト中間報告書』刊行

荒川区民総幸福度（GAH）が大きな注目を集めています

現在、荒川区民総幸福度（GAH）が、国内外から大きな注目を集めています。これまで、テレビや新聞の社説をはじめ、都道府県、研究機関などから130件を超える視察や取材を受けました。昨年9月には、荒川区民総幸福度（GAH）に関心を持ったブータンの上院議員一行が区を表敬訪問し、その後のブータン国王来日の際には、西川区長が歓迎レセプションに招待されました。また、12月には、世界30か国が参加した国際会議「幸福度に関するアジア太平洋コンファレンス」において、全国の自治体から唯一、西川区長がパネリストとして登壇しました。



荒川区を訪問したブータン上院議員一行



Q. 荒川区民総幸福度(GAH)の目的は？

A. 荒川区民総幸福度（GAH）には、2つの側面があります。

区民の皆様の幸福度の指標化

これまで、行政の政策の評価は、例えば「公園をつくった数」や「道路の整備メートル数」など、政策の「直接的な結果」で行われる傾向がありました。しかし、本来は、公園をつくったことや道路を整備したことで区民の皆様にとどのように役立ったのかといった、政策を実施したことによる「成果」で評価すべきものです。

区では、この究極の「成果」とも言えるのが、区民の皆様の幸福度の向上であると考えています。幸福度の指標が作成できれば、区民の皆様の幸福度の向上に寄与するために、どのような分野の政策を優先的・重点的に実施していくべきかを検討することが可能となります。

ここで重要なのは、幸福度指標づくりに区民の皆様に関与・参加していただくことであると考えています。



地域社会を担う人材を育成する学びの場
「荒川コミュニティカレッジ」の様子

区民の皆様によるあたたかい地域社会を築くための運動

行政が区民の皆様の幸福度の向上を全てカバーすることはできません。区民の皆様一人ひとりが幸せとは何かを意識し、考えることが大事ではないでしょうか。

区では、区政世論調査において、区民の皆様に荒川区民総幸福度（GAH）に関するアンケートを行っていますが、分析の結果、地域活動や行事に



バケツリレーによる消火活動

参加している人ほど、また、社会に貢献していると感じている人ほど幸福度が高いことがわかりました。他の調査でも、これと同様の傾向が明らかになっています。つまり、自分の幸福だけでなく、身近な人や地域社会の幸福について考え、行動することで、自分自身の幸福にも地域社会の幸福にもつながっていくと考えられます。

区民の皆様のご理解・ご協力なくしては、荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みは実現しません。区および荒川区自治総合研究所では、今後、区民の皆様と共に考え、力を合わせて、誰もが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築いていきたいと考えております。ぜひ、区民の皆様のご協力をお願いいたします。



■幸福度の高い、あたたかい地域社会につながる区民の皆様の活動



町会の皆様による防災区民組織では、要援護者の避難を援助する「おんぶ作戦」の訓練を行っています。



街中の潤いと憩いのスポットである「街なか花壇」の花は、区民の皆様によって育てられています。



区のオリジナルの転倒予防体操「荒川ころばん体操」は、ボランティアのリーダーが中心となって運営されています。



区民の皆様が中心となって、路上のごみ拾いなどの環境美化活動を行っています。



子どもの安全確保のために、園児安全推進員が保育園や学校等で見守りをしています。



みんなの実家@まちやはボランティアが運営している子育てスペースです。

■荒川区民総幸福度(GAH)に関する発行物

これからも様々な機会をとらえてGAHに関する情報を発信して参りますので、ぜひご一読ください。



←研究報告書

『荒川区民総幸福度(GAH)に関する研究プロジェクト中間報告書』

価格 250 円
平成 23 年 8 月公表



←RILAC ライブラリー

『あたたかい地域社会を築くための指標
—荒川区民総幸福度(グロス・アラカ
ワ・ハピネス:GAH)—』
定価 700 円(本体 667 円+税 5%)
平成 22 年 5 月刊行
好評につき 2 回目の増刷決定!!



←GAH NEWS (年 6 回程度発行)

RILAC NEWS→
(年 4 回程度発行)



〔発行・お問い合わせ〕

公益財団法人荒川区自治総合研究所
〒116-0002
東京都荒川区荒川二丁目 11 番 1 号
(荒川区役所北庁舎 3 階)
電話番号: 03-3802-4861
ファックス番号 03-3802-2592
ホームページ <http://www.rilac.or.jp/>
メールアドレス info@rilac.or.jp